

令和 6 年度
事業報告書

社会福祉法人息吹

令和6年度社会福祉法人息吹事業報告

《総括事項》

1 人員体制の確保について

令和6年度も介護福祉業界における人手不足はかねてから特に厳しい状況が長期化しており、法人においても常に求人の取組みを緩めることができない。現在の法人の人員体制においては、人員配置基準を満たす状態を維持してはいるものの、資格を所持する職員の割合が低いことが課題となっている。今後も長く働きやすい職場づくりに向けて粘り強く職場定着策を充実することが重要である。

2 利用者の減少について

法人が運営する日中活動系事業所全般において、利用者が減少している。一般就労が実現したり、体調不良で通所が安定しなかったり、入院で契約解除せざるを得なくなったり、理由は多岐にわたっている。

グループホームにおいては、新たな入居が2件あり、空室は1室となっているが、空室を満たすためには利用者同士のマッチングなど難しい調整が必要である。

3 利用者及び家族の虐待事例について

虐待防止及び権利擁護に関する研修・身体拘束等の適正化のための指針・障害者差別解消法に関する研修等人権に関する研修を定期的に行い職員の意識向上に努めた。

実際に息吹の運営する事業所においても、利用者に関する虐待事例が発生し、箕面市関係部局と連携し対応を行った。「親や配偶者に対する暴力・暴言」「親や配偶者から受ける暴力や暴言」が主で、家族関係による身体的・精神的虐待が中心となっている。虐待事例に認定されず通報にとどまったケースでは、施設従事者（他法人事業所）による場合もあった。家族が社会から孤立せず、関係機関へ相談できる環境を整えて、虐待の芽を摘んでいく取り組みが必要である。

4 もみじの家の事業転換について

生活介護事業所として運営してきたが、日中活動プログラムよりも工賃向上につながる生産活動への意欲とニーズが増えてきたため、9月から改めて就労継続支援B型事業所に事業転換した。生活介護での良い面を活かしながら運営している。事業転換後は平均工賃も上がって、利用者の就労意欲向上にもつながっている。

《事業別報告》

1 理事会・評議員会開催状況

(1) 理事会開催状況(全3回)

第1回理事会(全議案を同日可決、承認)

開催日時: 令和6年6月12日(水)

- 第1号議案 令和5年度社会福祉法人息吹事業報告の件
- 第2号議案 令和5年度社会福祉法人息吹決算の件
- 第3号議案 職務執行状況報告の件
- 第4号議案 令和6年度定時評議員会招集通知記載事項の件
- 第5号議案 評議員選任解任委員選任の件
- 第6号議案 福祉・介護職員処遇改善加算一時金等規程廃止の件
- 第7号議案 職員給与規程一部改正の件
- 第8号議案 非常勤職員就業規則一部変更の件
- 第9号議案 かたばみ寮運営規程一部改正の件
- 第10号議案 生活介護事業もみじの家の事業転換の件

(第11号議案は廃案により欠番)

第2回理事会(全議案を同日可決、承認)

開催日時: 令和6年12月16日(月)

- 第12号議案 正職員就業規則一部改正の件
- 第13号議案 非常勤職員就業規則一部改正の件
- 第14号議案 かたばみ寮運営規程一部改正の件
- 第15号議案 令和6年度補正予算(案)の件

第3回理事会(全議案を同日可決、承認)

開催日時: 令和7年3月17日(月)

- 第16号議案 給与規程一部改正の件
- 第17号議案 職員等育児・介護休業等規程一部改正の件
- 第18号議案 役員賠償責任保険契約の件
- 第19号議案 令和6年度補正予算(案)の件
- 第20号議案 令和7年度事業計画(案)及び予算(案)の件
- 報告第1号 職務執行状況報告の件

(2)評議員会開催状況(全1回)

定時評議員会

開催日時: 令和6年6月27日(木)

第1号議案 令和5年度社会福祉法人息吹事業報告の件

第2号議案 令和5年度社会福祉法人息吹決算の件

2 地域交流啓発事業及び全体事業

2月 ハートパーク(萱野北小学校ワークショップ)

2月 おもちつき(もみじの家 息吹地域交流会)

3月 ハートパーク(箕面市総合保健福祉センター分館2階講堂) 学習会「精神科にどのようなイメージをいただくでしょうか～精神科医療とつながる際に役立つ基礎知識を学びましょう～」

3 ボランティア・見学・実習の受入れ

(1)ボランティア・見学・実習の受入れ状況

ボランティア受入れ延べ人数	12 人
利用見学及び実習受入れ延べ人数	49 人
関係機関等施設見学・実習受入れ延べ人数	44 人
精神保健福祉援助実習受入れ延べ人数	49 人

(2)主な見学及び実習の受入れ機関等

精神保健福祉ボランティアこころの会、大阪バイオメディカル専門学校、大阪健康ほいく専門学校、神戸女学院大学、箕面市立第二中学校

4 会議への派遣

- ・箕面市保健医療福祉総合審議会
- ・箕面市障害者市民施策推進協議会
- ・箕面市地域自立支援協議会運営会議
- ・箕面市地域自立支援協議会相談支援部会
- ・箕面市地域自立支援協議会地域移行・定着支援部会
- ・箕面市地域自立支援協議会権利擁護部会
- ・箕面市地域自立支援協議会障害者就労系通所事業所 情報交換会
- ・箕面市生活困窮者自立支援事業推進協議会

- ・(社福)箕面市社会福祉協議会評議員会
- ・(社福)あかつき福祉会評議員会
- ・(社福)あかつき福祉会 グループホーム運営委員会
- ・(財)箕面市障害者事業団採用検討委員会
- ・(財)箕面市障害者事業団理事会
- ・(財)箕面市障害者事業団評議員会
- ・(財)箕面市障害者事業団自主事業運営委員会
- ・大阪精神障害者地域生活支援連絡協議会
- ・箕面市社会福祉法人連絡会

5 職員研修実施状況

(1)職場研修

- ・公正採用選考人権啓発推進委員研修
- ・業務継続計画(BCP)自然災害及び新型コロナウイルス感染症発生 研修・訓練
- ・感染対策委員会 研修・訓練
- ・虐待防止及び身体拘束適正化委員会 研修

(2)主な参加研修

① 資格取得研修

- ・サービス管理責任者研修
- ・相談支援従事者初任者研修
- ・相談支援従事者現任研修

② 業務能力開発のための研修

- ・就労選択支援事業勉強会
- ・権利擁護部会講演会「意思決定支援について(成年後見を中心に)」

③ 人権問題及びその他の研修

- ・箕面市高齢者施設等感染症対策リーダー養成研修

パオみのお（相談支援事業）事業報告

1 概要

箕面市委託相談支援について、新規相談件数が増えている。

計画相談支援について、新規相談への対応が主な支援業務となっており、計画相談の新規受任が難しい状況が続いた。

2 特筆すべき事項と課題

（１）指定特定相談支援事業（計画相談）

箕面市の委託相談支援事業所として、精神障害者の困難事例への対応件数を増やすよう求められている。しかし、困難事例であることから対応時間を要しコンスタントに計画相談の受任件数を増やすことが難しい状況である。

（２）指定一般相談支援事業（地域移行・地域定着）

箕面市地域自立支援協議会地域移行部会において、精神科病院入院患者の退院支援について、課題を洗い出し、課題解決に向けた検討を進めた。

入院が長期化しないように、院内寛解の患者について、退院後の家探し、日中活動や障害福祉サービス等の調整を行い退院につながったケースはあるものの、地域移行支援給付を活用した退院支援には至らなかった。

（３）委託相談支援事業（箕面市地域生活支援事業）

パオみのおが箕面市委託相談事業所であることから、困難事例を中心に新規の相談が絶えない状況があり、件数は増え続けている。多様な相談事例において、各種関係機関と連携したチーム支援を構築することが多く、相談支援の広がり、支援の充実につながっている。

障害福祉サービスを利用することで生活の質の向上が見込まれるものの、様々な理由でサービス利用に至らないなど、対応が困難な事例も多い。家族や関係者からの相談も多く、当事者本人に繋がらないケースも増えている。

3 今後について

（１）指定特定相談支援事業（計画相談）

困難事例を中心に新規受任件数を増やすよう求められていることについては、職員体制を確保するとともに、職員の相談スキルの向上に向けた育成体制を充実させる必要がある。

（２）指定一般相談支援事業（地域移行・地域定着）

個別支援や地域の体制整備について、大阪府地域精神医療体制整備広域コー

ディネーターや自立支援協議会地域移行・定着支援部会と連携した支援を行うとともに、引き続き部会における検討を行う。

(3) 委託相談支援事業（箕面市地域生活支援事業）

困難事例への対応については、引き続き箕面市基幹相談支援センター等と連携して支援に当たるとともに、職員研修等による能力強化と連携強化に努める。障害福祉サービスが必要であるにもかかわらず、サービス利用に至っていない障害者への支援については、柔軟に利用が可能な地域活動支援センターを活用することで対応していく。

4 主な活動実績

(1) 計画相談支援事業（指定特定相談支援事業）（単位：件）

	6年度	5年度	前年度比
サービス等利用計画作成	102	89	114.6%
モニタリング	260	246	105.7%

(2) 地域相談支援事業（指定一般相談支援事業）（単位：件）

	6年度	5年度	前年度比
地域移行支援	0	0	-%
地域定着支援	0	0	-%

(3) 相談支援事業実績（箕面市地域生活支援事業）（単位：件）

	6年度	5年度	前年度比
相談支援	3,671	2,178	168.5%
生活サポート	30	28	107.1%

パオみのお（地域活動支援センター）事業報告

1 概要

新型コロナウイルス禍以降、レクリエーションなど元の活動に戻してきたが、サロン利用者数は減少したままになっている。

サロンで過ごすことが難しい利用者を対象にしたグループワークの活動は、堅調に推移している。

2 特筆すべき事項と課題

- (1) 相談支援事業の相談者に対してサロンの見学や紹介など情報提供をしているが、新型コロナウイルス禍以降はサロンの利用そのものが減少した状況が続いており、特定の顔ぶれの利用者が目立っている。
- (2) サロンで過ごすことが難しい利用者を対象に実施してきたグループワーク事業については、2つのグループともに月2回の活動が定着している。

3 今後について

- (1) 多様化する利用者ニーズに対応するため、内部研修の実施や外部研修の積極的活用により職員育成に努める。
- (2) グループワーク事業については、2つのグループそれぞれの雰囲気に参加しやすいものに醸成して、さらに充実させることが重要である。

4 主な活動実績

- (1) 当事者活動支援 58人（前年度77人）

魁スポーツ推進振興クラブ、パオミーティング（カメカメクラブ、カチカチクラブ等は新型コロナウイルス禍以降休会中）

- (2) レクリエーション活動 68人（前年度122人）

お花見散歩、五月山ドライブ、新駅散策、親水公園とシェスタランチ、ワークマンとはま寿司、かき氷、エキスポシティ、天王寺動物園、クリスマス会、万博公園、大阪城など

(3) 独自事業

- | | | |
|------------|-------|---------------|
| ①グループワーク事業 | 延利用者数 | 97人（前年度123人） |
| ②食事作り事業 | 延利用者数 | 257人（前年度298人） |
| ③送迎事業 | 延利用者数 | 7人（前年度4人） |

※（カッコ）内は昨年度実績

(4) 見学・実習受入状況

利用見学受入れ延べ人数	27 人
精神保健福祉援助実習受入れ延べ人数	13 人

5 利用者状況

(1) 利用実績

	6 年度	5 年度	前年比
延べ利用者数	1,924 人	2,216 人	86.8%
開所日数	308 日	308 日	100.0%
1 日あたり平均利用者数	6.3 人	7.2 人	87.5%

(2) 登録者数 令和 7 年 3 月 31 日現在 (単位: 人)

	6 年度	5 年度	前年比
男性	181	173	104.6%
女性	146	143	102.1%
合計	327	316	103.5%
新規登録者数	4	8	50.0%

(3) 障害種別 令和 7 年 3 月 31 日現在 (単位: 人)

	登録数	精神	身体	知的	発達	高次脳	重複
男性	181	160	1	10	13	1	4
女性	146	134	1	6	6	1	2
合計	327	294	2	16	19	2	6

かたばみ寮(共同生活援助)事業報告

1 概要

令和5年度も3室が空室を1室のみとなったが、利用者間のマッチングの問題や日中活動が減りグループホームで過ごす時間が増えている問題がある。利用者間の問題や利用者と世話人との関係性が症状に影響して問題となることもあった。

そのため世話人への情報共有や研修など行いながら支援方針を伝えていくとともに、利用者個々の通所先事業所など支援機関と連携し日中活動への促しを継続していく。

2 特筆すべき事項と課題

- (1)新たな入居者が、グループホームでの生活ルールに自然に馴染めるように、見守りや声掛けの支援を重要視するとともに、安定した生活と日中活動への参加をめざすことができるように、それぞれに合ったペースで促している。
- (2)個別支援計画については、年に1度の計画作成と半年に1回のモニタリングを行っている。昨年度に引き続き、日中活動先の就労継続支援B型事業所及び地域活動支援センターとの連携強化を図りつつ計画を作成するよう留意した。
- (3)利用者の障害種別について、精神障害だけでなく知的障害、発達障害、認知レベルの低下など多様化しているとともに利用者の高齢化も進んでいる。
- (4)配置基準を満たすために人員体制を補充してきたが、利用者の生活に不安が生じないように、職員間で情報共有やスキルを向上してフォローし合うことが重要となっている。

3 今後について

- (1)個別支援計画の目標に達していない利用者へのアプローチを関係施設、関係機関と連携をとりながら強化する。
- (2)障害種別の多様化と利用者の高齢化により、支援力の向上・強化が求められている。人員体制の新陳代謝に伴って配属される新たな職員については、特に内部研修の実施や外部研修への参加を積極的に行っていく。
- (3)新規入居者の募集について、早期に満室を実現できるように法人事業所の利用者以外にも対象者を広げて、積極的に取り組んでいく。入居者同士のマッチングなど踏まえ、かたばみ寮とぶなの木荘の全体での調整を考慮し新たな利用者の受け入れ態勢を整えていく必要がある。

4 利用者状況(令和7年3月31日現在)

①利用者数(単位:人)

	定員	利用者
かたばみ寮	2	2
第2かたばみ寮	4	3
ぶなの木荘	4	4
第2ぶなの木荘	3	3
合計	13	12

②利用者の特性

平均年齢	54.6歳	
平均在籍年数	9年9か月	
障害支援区分	区分 2	2人
	区分 3	6人
	区分 4	4人

③利用者の日中活動先(単位:人)

もみじの家	6
あっとほーむ	3
シェスタ	1
就労	1
その他	1

就労継続支援B型事業所もみじの家事業報告

1 概要

令和6年9月に生活介護事業所から就労継続支援 B 型事業所へと事業移行を行った。生活介護事業所の頃からの基幹作業と合わせ、さらなる工賃向上のために新たな作業としてリサイクル玩具の袋詰め、市立図書館の資料修理作業を導入し作業時間拡大への対応を行った。利用者への支援としては年2回のモニタリングを行い、個々の目標や取り組みを検討し、就労支援の提供に努めた。

2 特筆すべき事項と課題

(1) 日中活動及び就労支援事業

令和6年9月から就労継続支援B型事業所へと事業移行を行ったが、利用者からのニーズにより希望の多いプログラムを月4回程度残した。健康教室については、月1回看護師に訪問してもらい、個々に健康面について相談できる場を確保した。しかし、事業移行前と比べ作業時間が増えた為、新たな作業を開拓し工賃向上に努める。

(2) 個別支援計画

個別に面談を行い個別支援計画の作成と年2回のモニタリングを行い、具体的な支援の検討を行った。

事業移行に伴い、長期・短期の目標を見直すことで新たな課題を見つけることができた。就労に向けての支援方法についても見直す必要がある、

(3) 利用者の状況

長期にわたり通所できていない利用者について、送迎ポイントを利用しやすい場所に変更する等、配慮しているが来所に繋がっていない。架電による近況確認や関係機関と連携をとり、利用再開に繋がる支援が必要である。

3 今後について

作業時間が増えたことにより既存の箕面市指定ごみ袋製袋作業、リサイクル玩具の袋詰め、市立図書館の資料修理作業だけでは作業量が不十分であるため、新たな作業の開拓が必要である。しかし、利用者が高齢化する中で新規作業の内容については利用者の取り組みやすい内容を選択する必要がある。

また、通所回数の少ない利用者に対して、体力の許す範囲で通所回数を増やす促しを行い、利用者の生活安定を目指していく。

4 主な活動実績

(1) 就労支援事業

①主な就労支援事業収入:生活介護(令和6年4月～8月)

事業内容	6年度	5年度	対前年度比
受託事業(箕面市ごみ袋製袋)	585,567 円	1,209,361 円	- %
その他(自主製品等)	171,674 円	445,933 円	- %
計	757,241 円	1,655,294 円	- %

主な就労支援事業収入:就労継続支援 B 型(令和6年9月～令和7年3月31日)

事業内容	6年度	5年度	対前年度比
受託事業(箕面市ごみ袋製袋)	757,185 円	円	- %
その他(自主製品)	596,447 円	円	- %
計	1,353,632 円	円	- %

②利用者一人当たりの月額平均工賃額:生活介護(令和6年4月～8月)

6年度	5年度	対前年度比
6,616 円	6,552 円	101.0%

利用者一人当たりの月額平均工賃額:就労継続支援 B 型(令和6年9月～令和7年3月31日)

6年度	5年度	対前年度比
8,064 円	円	- %

(2) 日中活動プログラム

①主な日中活動プログラムの活動実績

プログラム	年回数	概要
ミーティング	12 回	プログラム内容及び施設利用ルールなどについて、利用者に説明したり意見を出し合ったりする。
調理実習	10 回	ボランティアグループところの会と利用者が調理し食事する。
健康教室	10 回	医師及び看護師による健康相談(血圧、脈拍など)及び健康知識の講習会など。

※上記の他に、運動、菜園、外出レク等

②ボランティア・見学・実習参加状況

ボランティア受入れ延べ人数	12 人
利用見学及び実習受入れ延べ人数	8 人
関係機関等施設見学・実習受入れ延べ人数	14 人
箕面市立第二中学校体験実習受入れ延べ人数	2 人
精神保健福祉援助実習受入れ延べ人数	12 人

(2) その他の活動

- ①施設外活動(市内お祭りへ出店参加)
- ②啓発活動(精神障害者理解促進事業ハートパーク、おもちつき)
- ③息吹交流会

5 利用者状況

(1) 利用実績総括表

令和7年3月31日現在

項目	6年度	5年度	対前年度比
利用契約者数	22 人	20 人	110%
平均年齢	53.5 歳	51.3 歳	2.2 歳
稼働日数	244 日	243 日	100.4%
延べ利用者数	2,429 人	2,631 人	95.5%
1日平均利用者数	8.3 人	10.8 人	76.9%

(2) 障害者手帳所持状況

令和7年3月31日現在(単位:人)

	利用者数	1 級	2 級	3 級	B1
男	16	1	11	2	2
女	6	0	6	0	0
合計	22	1	17	2	2

就労継続支援B型あっとほーむ事業報告

1 概要

個別支援計画において具体的な目標や取り組みを検討し、年2回のモニタリングを通して検証するとともに、関係機関との連携により生活及び就労に係る支援を実施した。

新たな取り組みとして、赤い羽根共同募金への取り組みに参画した。参画するにあたり利用者にも意向を伺った上で、寄付付き商品として、お弁当の売上金の一部を寄付することとなった。時期は、10月～12月の3か月間でお弁当1食につき5円、合計48,355円を赤い羽根共同募金へ寄付することができた。

また、新規利用者が増えたことで、利用者同士の関係性がスムーズに構築できるよう職員が間に入って支援を行っている。問題が起きた時、早期解決が出来るよう、さらなる職員の支援スキル向上が求められる。

2 特筆すべき事項と課題

(1) 就労支援事業

工賃向上について、契約利用者数と延べ利用者数が前年度より増加したが、配食サービスの売り上げも増加できたので、月額平均工賃額を微減で維持できた。

前年度から調理作業に1日通って従事した場合には増額する工賃計算方法を導入しているが、調理作業に従事する利用者の減少傾向が続いており課題である。一方で、調理作業とその他作業の隔たりをなくす雰囲気醸成してきたことで、誰もが洗いもの、片付け、盛り付け作業に半日だけでも取り組む利用者が増えてきた状況もある。個々の利用者の特性や希望に沿って作業選択できるよう配慮も重要視している。

(2) 個別支援計画

個別支援計画の作成や年2回のモニタリング及び随時の面談を通じて具体的な個別の支援を行った。成果としては、利用者の意思を尊重した短期目標の設定と課題達成のための取り組みを行うことにより、職業準備性の向上がみられ、企業や協力機関での実習に取り組めるよう促していく。また、計画作成の過程で関係機関との連携が広がった。

(3) その他

体験と実習を終えて利用に繋がった新規利用者が増えたが、就労経験がなかったり不安定になる利用者への対応など職員のスキルが求められることが増

えてきた。

3 今後について

就労支援事業について、効率的かつ効果的な事業運営をめざして、必要に応じた業務改善に努め、利用者の生活安定や就労のステップアップに資する事業体系を構築し続けていく必要がある。また、より地域に根ざした活動を行っていき、地域住民との交流を図り、地域のニーズを把握しつつ、事業経営を進めていく。

職員の職場定着に向け育成を行い、サービスの質の向上に努めていく。

作業工程については、1階調理場で行ってきた仕込み作業の一部を2階作業として取り組むことで新鮮な作業として取り組みに参加する利用者が増えてきた。役割分担を整理することで、工賃向上へ向けて全員で取り組めるようになってきた。

4 主な活動実績

(1) 就労支援事業

①主な就労支援事業収入

事業内容	6年度	5年度	対前年度比
配食サービス事業	18,030,000 円	15,050,551 円	119.8%
自動販売機管理	81,920 円	87,860 円	93.2%
受託事業(もみじの茎切り)	50,000 円	71,000 円	70.4%
自主製品事業(ビーズ・陶芸)	0 円	0 円	-%
その他(印刷など)	109,391 円	112,120 円	97.6%
計	18,271,311 円	15,321,531 円	119.3%

②利用者一人当たりの月額平均工賃額

6年度	5年度	対前年度比
39,407 円	41,648 円	94.6%

③ボランティア・見学・実習参加状況

ボランティア受入れ延べ人数	0 人
利用見学及び実習受入れ延べ人数	8 人
関係機関等施設見学・実習受入れ延べ人数	14 人
精神保健福祉援助実習受入れ延べ人数	12 人

(2) その他の活動

①施設外活動)

②啓発活動(精神障害者理解促進事業ハートパーク、おもちつき)

- ③余暇活動(忘年会、新年会、茶話会、外出レクなど)
- ④専門指導研修(調理師による利用者向け・職員向け講習会)
- ⑤息吹交流会

5 利用者状況

(1) 利用実績総括表

令和7年3月31日現在

項目	6年度	5年度	対前年度比
利用契約者数	28 人	27 人	103.7%
平均年齢	44.4 歳	45.0 歳	▲0.6 歳
稼働日数	244 日	243 日	100.4%
延べ利用者数	4,178 人	3,577 人	116.8%
1 日平均利用者数	17.1 人	14.7 人	116.3%

(2) 障害者手帳所持状況

令和7年3月31日現在(単位:人)

	利用者数	2 級	3 級	B 1	B 2	身 5 級	身 4 級	重複
男	17	14	2	1	0	1	1	2
女	11	4	5	0	5	0	0	3
合計	28	18	7	1	5	1	1	5

就労継続支援B型シエスタ事業報告

1 概要

就労支援事業については、新商品等を増やし、箕面市ボートレース事業局からの定期的な注文により、昨年より売り上げが向上した。売り上げが向上した上に、利用者が減少したため平均工賃は3,000円増額となった。今後はさらなる商品開発に力を入れる取り組みが利用者の新規契約者増加に向けた対策が必要である。

利用者の支援に関しては、個別支援計画を作成し、年2回のモニタリングをすることによって具体的な目標や取り組みを検討し、効果的な就労支援の提供に努めた。

2 特筆すべき事項と課題

(1) 就労支援事業

販売先については、学校以外の一般企業等への販路拡大に取り組む必要がある。昨年度から引き続き、箕面市ボートレース事業局より優先調達事業として焼き菓子の注文を受注でき、売上を増加することができたため、今後も継続した注文を受けられるよう生産力向上にも努めていく必要がある。

利用者の減少に伴い、焼き菓子製造作業に負荷がかからないよう工夫が必要のため、製菓専門の職員を雇用し、生産量の増加や新商品の開発につながるよう努めた。

(2) 個別支援計画

利用者個人の面談を通し、個別支援計画の作成と年2回のモニタリングを行い、具体的な個別の支援を行った。このことによって、短期的な目標設定と利用者の意思確認を行い、他機関への実習や見学、関係機関との連携強化といった成果につながった。モニタリング以外でも、都度必要に応じて面談等を行い、利用者の日常生活の悩みの解決を行った。

(3) 利用者の状況

一般就労や他の事業所へ利用者が移行したため、契約者数が伸び悩む状態が続いている。通所回数が少ない利用者が多いため、平均利用者数が減少し、安定した事業運営が難しくなっており、利用者の確保が大きな課題となっている。

しかし、目標に向けて体力作りや生活のリズム作りが順調に向上している利用者もあり、販売先も再開できるところも増えたことで、意欲的に活動を行えた面もある。

3 今後について

原材料の高騰により、今年度から価格の改定をせざるを得ない状況となっている。夏季から始まる冷菓の販売では、今まで無料であったプラスチックスプーンを有料化することとした。利用者については、一般就労や他の事業所へ移行した利用者に加え、50歳代以上で体力低下しつつある利用者の利用日数減少もあるため、安心してやりがいのある事業展開を行い利用者の確保に努めていく。

新規利用者の受け入れについても関係機関等へのチラシ配布などを行いながら進めていく。

4 主な活動実績

(1) 就労支援事業

①主な就労支援事業収入

事業内容	6年度	5年度	対前年度比
焼き菓子販売	4,531,866 円	4,260,271 円	106.4%
委託事業(もみじの茎切り等)	100,000 円	180,000 円	55.6%
計	4,631,866 円	4,440,271 円	104.3%

②利用者一人当たりの月額平均工賃額

6年度	5年度	対前年度比
27,160 円	24,173 円	112.4%

③ボランティア・見学・実習参加状況

ボランティア受入れ延べ人数	0 人
利用見学及び実習受入れ延べ人数	6 人
関係機関等施設見学・実習受入れ延べ人数	14 人
精神保健福祉援助実習受入れ延べ人数	12 人

(2) その他の活動

- ①施設外活動(市内小学校イベント参加、市内お祭りへの出店参加)
- ②啓発活動(精神障害者理解促進事業ハートパーク、おもちつき)
- ③余暇活動(なかよし会等)
- ④息吹交流会

5 利用者状況

(1) 利用実績総括表

令和7年3月31日現在

項目	6年度	5年度	対前年度比
利用契約者数	15 人	15 人	100.0%
平均年齢	41.5 歳	41.8 歳	▲0.3 歳
稼働日数	245 日	244 日	100.4%
延べ利用者数	2,556 人	2,510 人	101.8%
1 日平均利用者数	10.4 人	10.3 人	101.0%

(2) 障害者福祉手帳所持状況

令和7年3月31日現在(単位:人)

	利用者数	1 級	2 級	3 級	A	B 1	身体 2 級	なし
男	7	0	4	3	0	0	0	0
女	8	0	3	1	2	1	1	0
合計	15	0	7	4	2	1	1	0